



とうえい

令和4年6月17日
東栄小学校
学校だより第3号

ごみを拾うことは、幸運を拾うこと！

雨上がりに紫陽花の花が美しく映える頃となりました。アメリカのメジャーリーグで二刀流、つまり、投手と打者の両方で大活躍し、昨年度MVPを受賞したロサンゼルス・エンゼルスの大谷翔平選手がとった行動について紹介します。〈東洋経済オンラインより一部抜粋〉



2018年4月11日のレンジャーズ戦、8回表、大谷選手はフォアボールを選んだ。一塁に大谷選手を置いて、レンジャーズは投手をクリス・マーティン選手に交代した。前年まで大谷選手と日本ハムで同僚だった投手だ。マウンドに上がるなり、クリス・マーティン選手は鋭い牽制球を投げた。慌てて1塁に戻る大谷選手。このとき大谷選手は、1塁ベースに長い足をかけながら、手を伸ばして落ちていたごみを拾っていた。(中略)他の試合でもフォアボールで1塁に歩かされる度に、ひょいにごみを拾っている。(中略)実は、大谷選手は意識してグラウンドのごみを拾っている。2015年、日本ハムの大先輩である稲葉篤紀さん(前侍ジャパン監督)がベンチ前のごみを拾っているのを見て感動し、それを真似るようになったのだ。彼自身はそれを「人が捨てた“運”を拾っている」と表現した。(後略)

私はこの記事を読んで、なるほど・・・と思いました。ごみを拾うことは、「良い運をもらうこと」になり、逆にどんな場所でも関係なくごみをポイポイ捨てることは、「良い運を捨てていること」になるのです。皆さんはどうでしょうか？良い運を拾うようにしていますか？逆に良い運をポイポイ捨てていませんか？

私たち大人も何か慌ただしい中で、つい損か得か、面倒か面倒でないか、効率が良いか否かで行動し、「大切な何かを一つ捨てながら・・・」日々過ごすことがあるように思います。また、「大切な何かを一つ拾う」ことを一日に一度でもやっていき、大人が「大切な何かを一つ拾う」姿を子どもたちに見せていきたいと思います。子どもたちは、大人の行動をさりげなく見ています。何事もまずは自分！家ではごみを散らかして妻に指導？を受けていますので、せめて学校周辺のごみ拾いをがんばろうと思います。ごみを拾うと何となく得をした気持ちになります。この気持ちは、ごみを拾った人だけしか分からないかもしれません。

～いいところみつけの旅 その3～

登校中に低学年の子がケガをしたとき、その子を保健室まで連れてきてくれた高学年の班長がいました。「そのおかげでけがの対応が早くできて、とても助かります」と保健の先生も喜んでいました。高学年の良い行動が低学年に受け継がれていくといいなと思います。

(校長 井田 寿)